



エジューン・アジェ 《日食の間》 1912年 ゼラチン・シルバー・プリント

TOP Collection

アジェのインスピレーション

ひきつがれる精神

Eugène Atget: The Eternal Inspiration

2017年12月2日|土|—2018年1月28日|日|

主催: 東京都 東京都写真美術館 会場: 東京都写真美術館 3階展示室 開館時間: 10:00—18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館30分前まで

休館日: 毎週月曜日(ただし1月8日|月・祝|開館、翌9日|火|休館)、年末年始 12月29日|金|—1月1日|月・祝|休館、1月2日|火|、3日|水|は11:00—18:00開館

観覧料: 一般 600(480)円／学生 500(400)円／中高生・65歳以上 400(320)円

※()は20名以上の団体料金 ※小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害をお持ちの方とその介護者は無料

※第3水曜日は65歳以上無料 ※1月2日|火|無料

TOP MUSEUM



1



2



3



4



5



6



7

本展覧会ではフランスの写真家、ウジェーヌ・アジェ（1857–1927）が後世の写真表現にどのような影響を与えたかについて考えます。当館所蔵の作品と写真集などの資料から、アジェ自身の作品とアジェ以降の写真家の際立った作品を中心に、その輪郭を浮び上がらせようとするものです。

ウジェーヌ・アジェは19世紀末から20世紀初頭にかけて、パリとその周辺を捉えた写真家です。1898年、41歳の時から30年間にわたって8,000枚以上の写真を撮影し、歴史的建造物や古い街並み、店先や室内、看板、公園、路上で働く人々など、近代化が進み、消えゆく運命にあった「古きパリ」を体系的に記録し、図書館や美術館、博物館などの公的機関や画家、建築家などのアーティストたちに販売しました。その顧客にはレオナール・フジタもいます。

アジェは孤高の写真家と称されることも多く、ひとり黙々と撮影に取り組みましたが、亡くなる2年前頃よりにわかつに注目されはじめます。偶然にも、同じ通りにスタジオを持っていたマン・レイが、アジェの写真からシュルレアリストと共に通するものを感じ取り、「シュルレアリスム革命」誌に取り上げたのです。この頃から、アジェの作家性にスポットライトが当たりはじめました。

さらに、当時、マン・レイの助手をしていたペレニス・アボットによって、アジェの存在は世界に波及していきます。アボットは、アジェの死後、散逸の危機にあったプリントやガラス乾板を、もうひとりの貢献者であるニューヨークのギャラリスト、ジュリアン・レビの助けを借りて買い取り、アメリカで広めています。その後、写真史家や美術館のキュレーターたちによって研究が進められ、アジェは近代写真の先駆者として位置づけられています。

しかしながら、アジェはいまだに謎めいたところのある写真家です。ニューヨーク近代美術館写真部門のディレクターだったジョン・シャーカフスキーは「ウジェーヌ・アジェ [...]、その人物について、我われには、わずかに信頼できる一握りの事実があるだけだ。それらはおおよそ不透明であいまいなもので、研究者たちは、そのことをきびしく穿鑿してきたが、そのほとんどは分からずじまいであった」（ジョン・シャーカフスキー「序文」『ウジェーヌ・アジェ写真集』[原信田実訳、岩波書店、2004]）と、かつて述べているように、生前のアジェ自身のコメントがあまり残されていないこともあります。彼の作品について多くの人たちが様々な想像を巡らせ、その眞実に迫ろうとしてきました。

アジェに憧憬を抱き、手本としてきた写真家たちは後を絶ちませんが、彼らがアジェの写真に見出したものはいったい何だったのか。本展は、アジェの同時代の写真表現と、アジェの先達となる写真家の作品も併せて展示し、紐解こうとするものです。

出品作家：ウジェーヌ・アジェ、マン・レイ、シャルル・マルヴィル、アルフレッド・スティーグリツ、ペレニス・アボット、ウォーカー・エヴァンズ、リー・フードランダー、荒木経惟、森山大道、深瀬昌久、清野賀子ほか

[関連イベント]

【関連トーク】

「ウジェーヌ・アジェの写真を紐解く」

横江文憲（写真評論家）日時：2017年12月8日（金）18:00–19:30

「ウジェーヌ・アジェの写真集をめぐって」

金子隆一（写真史家）日時：2018年1月5日（金）18:00–19:30

各回とも

会場：東京都写真美術館 1階スタジオ

定員：50名

*当日10時より1階総合受付にて整理券を配布します。

【展覧会担当学芸員によるギャラリートーク】

会期中の第1・第3金曜日14時より担当学芸員による展示解説を行います。

展覧会チケット（当日消印）をご持参のうえ、3階展示室入口にお集まりください。

*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

1. ペレニス・アボット《ウォーター・フロント》（変わりゆくニューヨーク）より 1938年 ゼラチン・シルバー・プリント
2. ウォーカー・エヴァンズ《写真家のウインドウディスプレイ、バーミンガム、アラバマ》1936年 ゼラチン・シルバー・プリント
3. 森山大道《ボスター（中野）》（東京）より 1968–80年 ゼラチン・シルバー・プリント
4. ウジェーヌ・アジェ《木》1910–20年 油彩／キャンバス（厚紙に貼付）
5. ウジェーヌ・アジェ《ショワジー館、バルベット通り8番地》1901年 鶴卵紙
6. 深瀬昌久《襟裳岬》（羽島）より 1976年 ゼラチン・シルバー・プリント
7. 荒木経惟《写真論》より 1988–89年 ゼラチン・シルバー・プリント



〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

Tel. 03-3280-0099 www.topmuseum.jp

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分。東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。

当館には駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM